

て自から居る倫敦巴里柏林ニユーヨークの如き大都會の眞中に於てさへも賤業婦人の數は計ふるに遑あらざる程にして公に私に其業を營めども曾て人の怪しむものなし論者は獨り我醜業婦の外出を禁じて誰れに讀められんとの考なるや果して井中の蛙なるを免かれざるものと云ふ可し抑も我輩が殊更に此問題を論する所以のものは外ならず人民の海外移植を獎勵するに就て特に娼婦外出の必要なるを認めたればなり移住民たるものは成る可く夫婦同行して家居團樂の快樂を其儘、外に移して新地に安んすること猶ほ故郷に居ると同様ならしめんこそ最も望む所なれども多數の移住民必ずしも妻帯のものゝみに限らず否な最初の間は不知案内の海外に行くことゝて移住の希望者は差當り係累のなき獨身者に多きのみか或は妻帯のものとても先づ一人にて移住したる上、國より妻子を呼寄せんとするものもあらんれば移植地の人口は男子に割合して女子に乏しきを訴へざるを得ず人口繁殖の内地に於てさへ娼婦の必要は何人も認めむる所なるに況して新開地の事情に於てはます／＼其必要を感じざるを得ず往年徳川政府の時に香港駐在の英國官吏より日本婦人の出稼を請求し來りしことあり其理由は同地には多數の兵士屯在すれども婦人に乏しきが故に何分にも人氣荒くして喧嘩爭論のみを事とし制御に困難なれば日本より娼婦を輸入して兵士の人氣を和げたしと云ふに在りき又浦鹽斯徳などにても同様の理由を以て頻りに日本婦人の出稼を希望し適ま／＼出稼のものあれば大に歓迎して政府の筋より保護さへ與ふるやの談を聞きたることあり海外の移植地に娼婦の必要なるは右の事實に徵するも甚だ明白にして婦人の出稼は人民の移住とは非とも相伴ふ可きものなれば寧ろ公然許可すること得策なれ且つ又當人の爲めに謀るも賤業婦として外に出づるものは内地に於ても何れ同様の境界に在るものにして敢て苦とせざるのみか現に外に出稼して相應の錢を儲け歸國の上、立派に家を成したる輩も多きよしなれば等しく賤業を營まんとならば寧ろ外に出で

て利益の多きを望むことならん何れの點よりするも賤業婦の外出は決して非難す可きに非ざれば移住の獎勵と共に其出稼を自由にするは經世上の必要なる可し（明治二十九年一月十八日）

移民の保護

我輩は前號より篇を重ねて海外移民の事を論じたり思ふに人民の移植は日本社會の大勢上、識者の夙に必要を認めたる所なれども今や我國の人心は戰勝の結果として漸く古來蟄伏の風習を脱して大に外に向はんとする折柄、經世家たるものは此機會を外さず／＼獎勵して實行を期せざる可らず而していよ／＼實行を期するに就ては單に社會の自由運動に一任せす國家の力を以て之を保護すること素より必要にして何れ少なからざる國費を要するものと覺悟せざる可らず或は人民の移植は社會の大勢に於て必要とは云ひながら外に出でたるものは外に働くのみにして假令ひ其土地が發達繁昌したりとて本國の人民は毫も益する所あるに非ず其發達繁昌は日本の勢力を海外に伸張するものにして國の爲めには甚だ愉快なりと雖も内に在る人民は實際に如何なる利益も受けざる其移植民の爲めに銘々の利害を犠牲にして之を保護するとは不經濟の談なりとて竊に疑を懷くものもあらんかなれども斯くの如きは大局に通ぜざる凡俗輩の見にして識者の見る所は大に異なり抑も移民の目的は國力を外に伸張すると同時に大に本國の利益を謀るものなり内地の人民が續々外に移りて其土地の發達を致すときは自然の結果として本國との間に商賣貿易の繁昌を見ざるを得ず彼の英國が世界の商賣國として現在の地位を成したるも亞米利加、濠洲、印度等の如き世界の東西南北到る處に植民地を有して自國の人民を繁殖せしめ其土地の次第に發達するに隨ひ本國との商賣貿易も次第に繁昌して遂に今

日の大繁昌を見たるものなり英國が植民地の經營に就て年來金を費したるは非常のものにして最初に於ては出入相償はざりしに相違なしと雖も多年後の今日に於ては其金は全く償却し盡したるのみか之が爲めに商賣の繁昌を致して本國の勢力を維持するの結果ありと云ふ其計畫の遠大なるを見る可し今人民の移植を保護するに金を費すは目下に於てこそ無益なるに似たれども將來その土地が發達して戸口の繁殖、物産の増加を致すときは本國との商賣貿易は次第に繁昌して之が爲めに益すること幾何なるや知る可らず即ち我輩の目的は永遠の利益にして假令ひ保護の爲めに金を費すも其金は空中に棄つるに非ず恰も繁昌の種を蒔くものにして其種は時を経て發芽生長し大に收穫の望あること萬々疑ふ可きに非ざれば決して吝しむに足る可らず若しも凡俗輩の見に従ひ目前に利益の見込なき金は決して費す可らずとせんか教育の爲めに金を費すが如きは最も無益と云はざるを得ず數多き兒童の中には或は身體虛弱にして半途に斃るゝものあり或は生來愚蒙にして成業の見込なきものあり百人の兒童を教育して實際に効の見る可き者は半數は愚か、三分の一にも足らざる可し眼前の利益より云へば甚だ覺束なき業なれども世人は之を必要と認めて教育の爲めにさへ莫大の金を費すに非ずや移植の計畫は教育に比して其效能の確かなは事實に疑ふ可らずのみか然かも實際の必要にして到底實行を期す可きものにこそあれば其の事の保護の爲めには目下の支出を吝しまず大に奮發して永遠の利益を謀る可きものなり抑も國家は百年の國家にして其利害も亦自から永遠なり經世家たるもののが國家の爲めに謀るには常に永遠の利害に著目して大に計畫せざる可らず移植の一事の如き實に國家百年の大計にこそあれば今日の時機に於て遠大の計畫こそ敢て希望する所なれども或は今の政府議會の如き尙ほ凡俗の見を脱する能はず眼前の急に忙はしくして百年の大計に思ひ到らざることもあらんには我輩は其人々を對手にせず一般の國民と共に飽までも此一事に熱心

して其實行を見るに非ざれば決して止まさるの覺悟なり（明治二十九年一月二十六日）

公共心の濫用

人類相集りて社會と名くる一團體を成し其團體の一個人に於ける關係は恰も父母の子女に對する關係に等しく其發育成長は一に社會の力を待つものなり個人の生死存滅は泡沫夢幻の如く常なれども社會は永遠に存して永久に絶えず滔々たる無常人生中の一個の實在なりと云ふ可し故に人類が社會に生れて其化育を蒙る以上は銘々に幾分の辛苦經營して社會を飾り社會を強くし社會を助けて化育の力を大ならしむるこそ宇宙萬有に對する人類の義務なる可し左れば社會に功績ありし人物の爲めに碑を建て像を作り又は有益なる企業の爲めに義捐金を募るが如き公共心に出でたる企は前述の理由よりして如何にも喜ばしきことなれども西洋の諺に弊害は惡事に基かずして多くは美事に淵源すとの言に違はず其公共心も今や漸く世間に濫用せられんとするの傾あるが如きは我輩の黙々に付する能はざる所なり抑も功績ある人物の爲めに建碑立像の企は其人物が眞實社會の全體に對して忘る可らざる功績ありて一般の人々が其お蔭を蒙りしと云ふの趣意に出でざる可らず又某々の企業を成就せしめんが爲めに義捐金を募るが如きは社會が其事業に由りて大に利したる事實なかる可らざるは明白の次第なるに今社會の公共心に訴ふるの企は果して悉く此種の性質を具ふるものなりや如何と云ふに或は其内幕に入りたらば當人の親戚朋友こそ義捐す可き義務はあるも社會全體は一毫もお蔭を蒙らざる者もある可く或は一時虛名を隠かしたれども社會には何等の功績もなき俗人もある可く又或は當人一個の生活の爲めに過ぎざる事業に社會の義捐を促がすが如き奇談も少なからざる可し否な現に其例を見聞し

たることなきに非ず我輩が公共心の濫用として反対する所以なり或は之を募るものは不埒なりと雖も社會の人々にして其募に應ぜざれば差支ある可らずと云はんかなれども人間の心は思ひの外に脆弱なるの常にして人類の義務などと云ふ辭を以て強ひて迫らるゝときは心には其不可を知りつゝいや／＼ながら之に應するものも少なからず真正面に其申込を拒絶するが如きは非常の勇氣あるものに非されば先づ以て覺束なかる可し而して斯くの如く價もなき人物實功なき虛名、私利に過ぎざる企業の爲めに公共心を濫用するの結果は其公共心を癡痺せしめて他日の實際に眞實社會の公共心に由りて經營せざる可らざる事を見る場合に社會の人々は之を冷遇して省みるものなきに至るの掛念なきに非ず如何にも危險の次第なれば漫に社會の公共心に訴ふるは思慮ある國民の爲す可きことに非ずとして我輩の敢て警しむる所なり（明治二十九年四月二十九日）

貴族の弊害

凡そ國運の衰微を催ほすには自から種々の原因なきに非ざれども古來の歴史に就て尋ねるに社會の上流に位する貴族の輩が政界に跋扈して人民の私有を犯し恰も法律以外に無名の苛稅を課するが如き國勢にして自から衰亡を招かざるものは殆んど稀なり之を事實に徵するに西班牙の如き前世紀の頃には恰も日の出の勢にして雄を世界に稱したる國なれども蠹害の源なる貴族の跋扈を悉にせしめたる結果として内外の所領廣くして豐饒の地多きにも拘はらず國運次第に退歩して纔に國脈を維持するのみ彼のフイリツビン群島の始末と云ひ又近頃キューバ嶋の騷亂と云ひ何れも其島民が貴族の虐遇に堪へず本國に反抗の意を表したものにして永久所領の實を全ふするは到底難かる可し葡萄牙の國

状も恰も前と同様なるは世人の熟知する所、今更述ぶるの要を見ず又露國に於ては貴族の跋扈非常なりしも彼得大帝の時に大に其勢力を挫き其後千八百六十二年に至り恰も一大掃除を行ふて全く貴族の特權を一掃したるより以來國勢次第に回復して今日の隆盛を致したるものなりと云ふ更に轉じて東洋の諸國を眺むれば土耳其、印度、波斯等の例は姑く擱き現に隣國の支那の如き古來貴族專權の國柄にして人民を苦しむこと甚だしく今の政府に至りても民間の私に何か業を企てるなどの場合は申す迄もなく或は政府に仕へて地位を求めるに又は罪を得て刑を免かれんとするにも總て賄賂の手段に由り目的を達するの常にして政府の官吏即ち貴族の一類は其賄賂を利して自から私慾を充すのみ貴族專横、賄賂公行、人民には殆んど私有の安全なしと云ふ國勢振はずして次第に衰運に傾くも決して偶然等の事なき其一方に政府に於ては年々歳入に不足を告げて貧乏に苦しむとは甚だ不可思議の次第なれども是れぞ即ち貴族の弊害にして彼等は政府と人民との間に立てあらゆる手段を盡し飽までも人民の物を吸収て自家の懷を肥やしながら其餓餘を政府に納むるが爲めに外ならず斯る有様にして國の立行くことは到底覺束なしと云ふ可し以上の事實を見れば貴族の專横は國の蠹害にして其衰亡を招くの原因たることは明白なりとして扱翻て我國の有様を顧みれば封建政制の政府は少なからざりしと雖も日本の武門政治の如く眞實その權力を行ふて實際に逞ふしたるものは見る可らず其威嚴殆んど近づくを得ず一見甚だ畏る可しと雖も我國には幸に武士道なるものありて實際に士族は非常の權力を握りながら金錢の事に至りては厘毛の私を容れず其清廉潔白は寧ろ驚く可き程にして公の租稅の外に人民の私有を掠むる

など夢にも思はざるのみか他に接する極めて親切寛大にして一般の難澁とあれば租稅を減じ又これを免除したるの例さへなきに非ず若しも封建政治に士族が其權力を濫用して人民の私に及ぼし以て一身の利を謀りたらば何事も其欲するまゝにして如何なる事態を見たるや知る可らずと雖も實際然らずして公私の區別甚だ嚴に苟めにも人民の物を掠むるが如き失態なかりしは是れぞ日本特色の國質、武士道のお蔭にして封建の士族政治が非常の勢力を逞ふしながら毫も國の發達を妨げずして開進の基を成したる其原因は慥に此一點に在りと認めざるを得ず殊に維新以來政體法律全く一新して政治上にも士族專權の跡を絶ち人民の私有はます／＼堅固にしてます／＼國運の發達を致したるは大に祝す可きの成行なるに然るに先年來何人の發意にや又如何なる目的にや新に華族を造るの流行を催ほして今に止まず既に此度も授爵の典に預りたるもの少なからず此釣合より推すときは今後次第に新華族の多きを見ることならん學者の眼より見れば人に爵位を授けて之を華族と名づけ殊更ら他に區別するが如き誠に馬鹿らしくして恰も兒戲に類すれども浮世の人情は甚だ俗にして其俗中には小兒の戯、決して戯ならず之を眞面目に受けて喜ぶこと凡俗の情なれば浮世の政治に兒戲を演じて人を喜ばしむるも自から一種の方便として妨ある可らず或は今的新華族には少なからざる賜金の伴ふあり授爵の多きは差支なけれども費用の限りなきを如何せんとの掛念もあらんなれども賜金の沙汰は人數の少なきが故なり今後續々恩命に預る可き幾多の新華族に一々金を賜ふは數に於て許さざる所なれば金の事は今度限り止めにして只爵位のみを授る其數は決して多きを厭はず政府部内の釣合に於て一般に満足するまでは誰れ彼れを問はず廣く授けて恰も華族政治を現出するも差支はある可らず我輩の如き新華族に就ては大に説なきに非ざりしかども今日と爲りては最早や云々するの無益なるを認め他の揚々自得に一任して只爰に大に警しむ可きは其華族なるものは昔の

所謂貴族に非ず只他に比較して少しく色を異にするまでのことに於いて公私の權利上には寸毫の特典を許す可らず即ち其異なる處は喻へば等しく飼犬にてありながら首環の有無を殊にし又乗馬の馬具に虎の皮を用ふると用ひざると位の相違にして苟めにも夫れより以上を區別せざる一事なり其特色にして果して是種の點に止まり一般の色に對して甚だしき變化を見ざるものならんには華族も亦一種異様の飾物として社會に存在し日本固有の國質に觸れずして發達進歩の國運に伴ふを得べし我輩の敢て望む所なり（明治二十九年六月十四日）

維新第一の勳功

今回の授爵には既に死したる人の遺族にして恩典に預りたるものあり天恩枯骨に及ぶとは此事にして當人にして知るあらば地下に感泣することならん抑も哲學流の見解を以てするときは同じ人間に階級を設けて強ひて他に區別するが如き本來小兒の戯に異ならず況して死者の遺族までも及ぼすなどは更に解す可らず或は國家に對するの勳功甚だ大にして之を捨置くは氣に濟まずとなれば自から之に酬ゆるの道ある可し必ずしも爵位を以てするに及ばざるが如くなれども授爵の事は既に習慣を成して先年來恩典に浴したる輩も少なからざることなれば其根底より覆して一切廢滅せしめざる限りは今更中止す可きに非ず且つ浮世の人情とかく虚榮を重んじて之に満足とあれば報酬に實物を與ふる其代りに爵位と名くる一種の物を以てすると見れば事實に差支なき次第にして我輩の殊更に反對せざる所なり扱今度の受爵者を見るに其勳功とは重に維新當時の功勞にして今日に於ては殆んど世間に名を忘れられたるものさへなきに非ざれば尙ほ廣く求めたらば生存者は勿論死者の中にも當時の功勞者は少なからずして何れおひ／＼恩典に預ること

ならんれども其認定は他に一任して爰に何人の見る所にても維新第一の勳功と認めて争ふ可らざるものは故西郷翁にして其遺族の如きは今の大臣輩以上の榮譽を受けて然る可きものなり我輩の如き敢て西郷の人物に感服するものに非ず又其技倆如何も詳にせざれども翁が維新の事に盡力して功勞の大なる他の功臣中に及ぶものはある可らず或は木戸大久保と並び稱して維新の三傑など唱ふるものあれども西郷の名望は他に傑出して實際の技倆は兎も角も其名望に由て行はれたる事業少なからず一般に認むる所にして今元勳など稱する人々も翁に對しては殆んど師弟の關係に異ならず或は其人々も爾來事の局に當りて功勞少なからず殊に日清戰爭の結果の如き前古無比の大功名に相違なしと雖も單に維新の勳功を云ふ可し或は維新の勳功は右に相違なれども日清戰爭の結果の如き前古無比の大功名に相違なしと雖汰は當然の處置と云ふ可し或は翁を推して第一と爲さざるを得ず此一點は朝野何人も異議なき所にして授爵の沙汰に及びたるものにして手段こそ達へども其趣は今在野の反對黨が政府を攻撃するに異ならず其心事甚だ明白にして深く咎むるに足らざる可し或は又その心事は兎も角も一旦朝敵の罪名を得たる上は如何とも可らずと云はんには聊か實例を挙げて之に答へざるを得ず榎本氏の如きは幕府の末路に函館に於て官兵に抗したれども全く其罪を免かれて現に子爵に敍せられたり又陸奥氏の如きも政府の轉覆を企てゝ罪を得たるに拘はらず今日の榮譽を荷ふたるに非ずや或は此兩氏の如きは後の功を以て前罪を償ひたるものなりと云はんか果して然らば前の功を以て後の罪を消するも差支なき理由にして西郷の大功を以てすれば末路の一事の如き差引して餘ありと云はざるを得ず況んや翁の罪名は憲法發布の時に全く除かれて位階さへ生前に復したるに於てをや今日に至り授爵の沙汰は決して差支ある可らず蓋し西郷

海嘯に就て富豪大家の奮發を望む

は淡泊無慾の性質にして元勳の身にてありながら磊落書生の生活を以て一生を終りたる人物なれば今更ら爵位などを受けて果して喜ぶか喜ばざるか地下の英魂を呼び起して問ふに非ざれば知る可らずと雖も維新の勳功に於ては到底比較す可らざる後進の人々が其同じ勳功を以て華族に列しながら長老先輩たる翁の子孫をして獨り恩典に漏れしむるは情に於て忍びざる所なる可し依て聊か一言を試るのみ（明治二十九年六月十六日）

今度三陸地方の海嘯は非常の天災にして其地方海岸一帯の市街村落は總て災を被り現に釜石の如き人口六千餘の市街にて五千の死者を出したりと云ふ急遽の際とて實地の取調も付かず又僻遠隔絶の場所は未だ報知の達せざる所もあるんなれば今後詳報の達するに隨ひます／＼被害の大なるを發見することならん先年尾濃地方の大地震の如き死者の數は一萬に足らず且つ地震の災は惨ならざるに非ざれども其慘中にも自から活路を求めて幸に免かるゝの機會なきに非ず一家眷族枕を駢べて死するが如きは先づ以て希有の例なれども海嘯の變に至ては然らず人も家も忽然捲去られて苟も免かるゝに路なく一瞬の間に桑田變じて海と爲り庭園田畑さへも洗ひ盡して一物の微を残さざる其慘状は地震の比に非ず昨日までの報告に據れば岩手縣のみにて二萬二千百八十五、宮城縣も亦三千百餘の死者にて之に青森を加ふれば凡そ三萬に及びたることならん聞くさへ怖ろしき次第にして只酸鼻の外なきのみ扱その罹災者は右の有様にて一家の老若男女を擧げて悉く死し遺族の者とても少なきことならんれば其後を恤むにも道なきが如くなれども災の及ぶ所甚だ廣くして負傷者も少なからず現に岩手縣の如き負傷者千二百餘名に及びしと云ふ或は幸にして生命には害な

きも全く家屋財産を失ふて路頭に迷ふものも甚だ多かる可し取り敢へず救恤の事は目下の急のみならず死者の始末を始めとして災後的一切處分に就ては自から莫大の費用を要することなり政府に於ても彼の岐阜愛知の時の例の如く勿論臨機の處分あることならんれども政府の事は自から別として全國一般の人々も同胞相憐の情として斯る慘状を傍観す可きに非ず金錢なり品物なり銘々に義捐して死者を弔ひ生者を恤むに躊躇せざることならん我輩の疑はざる所にして或は實際生活に餘裕なき人々の中にも自から衣食の費を省きて同情を表するものなどもある可し是種の義捐は眞實慈善の志に出づるものにして受くる者の心に於て一層忝けなきを感じることならんと雖も我輩は特に富豪大家に向て奮發を望むものなり大家の人々が慈善の事に注意の肝要なるは我輩の毎度説きたる所にして其人々に於ても素より其心掛はあることならんれども平日無事の場合には特に志を表するの機會に乏しくして心に思ひながらも自から等閑に流るゝの意味なきに非ず然るに今度の變災の如きは何人も一般に同情を寄する所なれば此處ぞ富豪大家が大に志を示すの場合なる可し近來世上一般の景氣は恰も春色を催ほして和氣洋々たる其中に獨り三陸地方の人民のみ斯る災に罹りたるとは如何にも氣の毒の限りにして不憫の情一層深からざるを得ず既に死したる者は今更致方なけれども負傷者もしくは生存の遺族者の始末は勿論、市街村落の狀態の如き若しも出來得ることならんには一切以前の有様に回復せしめて共に今日の幸福を同ふせんこと同胞一般の情なる可し我輩の所見を以てすれば其事たる敢て困難ならざる可しと思ふ其次第は現今實業の發達に伴ふて既設又は計畫中に係る銀行及び諸會社の資本は合計凡そ五億圓の多きに達したりと云ふ其銀行會社の株主は富豪大家の人々か或は然らざるも中產以上の者と見て差支なかる可し即ち其輩の財産の一部なる株券の高にても五億を計ふる次第にして假りに其金額中の百分の一を捨てゝも五百萬圓の數あり左

十九年六月二十一日)

目下の急を救ふ可し

れば今の富豪大家が少しく奮發すれば救恤は甚だ容易なる事にして取り敢へず罹災者に醫藥衣食を給するは勿論、或は道路田畠の破壊缺損を補ひ或は死者の多くして人の少なき處には他より移住せしむる等、大に世話して一切の狀態を舊に復せしむるときは地方人民の其恩に感するは申す迄もなく一般の所見に於ても富豪大家の徳を認めて永久に記憶することならん慈善の志を表するには實に得難き好機會なりと云ふ可し今や目下の事、急にして後々の始末まで云云する場合に非ざれども世上富爾有仁の人々は凡そ此邊の考を以て大に奮發せんこと我輩の敢て望む所なり（明治二十九年六月二十一日）

目下の急を救ふ可し

七七一

るのみ若しも此際に役所風の手續を云々して現に與ふ可きものはありながら其手續に拘泥して一日にても延引するときは急に及ばざるの遺憾は免かれざる可し或は事を輕率にして漫に散するときは實際に公平を缺くの掛念あるのみか後日に至り物議を生じて却て義捐者の芳志を空ふすることもあらんなどて殊更に鄭重にするが如きは寧ろ此場合に處する心得を誤るものと云ふ可し急遽の際に能くも事情を究めず漫然施與して或は多少の不都合もあらんなども其實際は恰も葬式の時の施物に異ならず或は貧民を粧ふて其施しに預る狡猾者もある可く又は一人にて二度も三度も物を受くるものもある可し雖とも是れは施しの常にして與ふる者に於ては一切頓著せざることなり混雜の中假令ひ是種の間違ひありとするも厚きに失するの失策にして咎むるに足らざるのみか反對に薄きに失するこそ寧ろ義捐者の不本意なれば兎にも角にも只事を急にす可きのみ況んや彼の狡猾手段の如き平常無事の日には免かる可らずと雖も斯る非常の場合には人々たゞ周章狼狽して如何なる人物も惡心運動の餘裕なきことなれば案外に不都合も少なかる可し断じて掛念に及ばずと知る可し

右は目下の救急手段として我輩の希望する所なれども多少の時日を経過し目前の急既に去りて後の始末と爲れば自から別にして更に望む所なきを得ず先年尾濃の震災の時の如き救恤の一ことに就ては別に不都合の沙汰を聞かざりしかども彼の河川堤防等の復舊工事の一段に至りては種々の醜状を呈し遂に罪人さへも生じたり左れば後の始末に就ては最も注意を要することにして其局に當るものは官民の別なく前の覆轍を鑑み大に事を慎みて苟も他の非難を招くが如き失態はある可らず目下の處置には多少の不都合を覺悟して大膽に決斷しながら既に一段落を終りて後の始末と爲れば全く反対にして小心細慮注意の上にも注意して寸毫の怠慢を容さず即ち前後緩急の別にして善く此別を考へて事の

機宜を誤らざること施政の能事を盡したるものと云ふ可し我輩の敢て望む所なり（明治二十九年六月二十七日）

紳士の宴會

近來紳士紳商と稱する人々が會社の發起と云ひ事業の計畫と云ひ又は懇親會など稱して其集會相談は必ず宴席に於てするの風を成し事の繁多なると共に宴會の催しも頻りにして其流の人々は殆んど毎夜の如く會飲せざるはなく或是一夜に二席三席の約束さへ免かれざることありと云ふ本來の目的は事の相談にして飲食の爲めに非ず只宴席の間に互に打解け交情を滑にして纏りを容易ならしめんとの意味なんらんなども扱實際の有様を如何と云ふに既に宴會とあれば酒食より先にするの常にして漸く飲み漸く食ひ漸く打解て漸く相談を始むる頃は一座の中既に醉を催ほして席上頗る賑に發言者の舌も稍や廻らすして辭の明亮を缺けば聴聞者の耳も既に熱して委細を聞取るに難く用談に交ゆるに雜談を以てして事は容易に抄取らず然かのみならず今の大宴には必ず藝妓を侍せしむるの例にして酒、酣なるに及べば絃歌湧き舞踊起り満坐の景色忽ち歌吹海に變じて肝腎の用談も何れへか流れ去り放歌亂舞泥醉昏憊、深更尚ほ散せざること多し斯の如きは飲食を以て用談を助くるに非ず寧ろ之を妨ぐるのみか或は用談を口實に飲食を恣にするものと云ふも可なり眞實相談の集會なれば一回にて充分に纏まる可きに二回三回尙ほ纏まらずして漸くに纏まる其間の幾集會は單に飲食の爲めに過ぎず或は其費用の如きも所謂機密交際費又は創業費の中に付込などして株主に酒食の代價を負擔せしむるが如き紳士にあるまじき不體裁もなきに非ずと云ふ是等は例外の沙汰として姑く擱き其人々が宴會に夜を深かして醉夢昏々車に扶けられて家に歸るときは殆んど人事不省の有様にして翌朝に至るも未だ全く醒めず即ち宿

醒と名くる一種の病に陥りながら其病の醫するや醫せざるに夕刻と爲れば又例の如く醉ふて歸るの常なり病理に於て熱病の経過は凡そ三四週間にして分利するの例なれども是種の昏醉病人は恰も日々熱病に罹りて日々分利するものと云ふ可し凡そ人間の養生法に注意す可きは眠食を過度にして然かも時を誤まらざる一事最も大切にして時ならずして食ひ酒に耽りて充分の睡眠を缺くが如き不養生これより大なるはなし生理上の約束は苟めにも欺く可らず生來如何に健康の人にも日々夜々に斯る不養生を犯して自から警めざるときは早晚病を得て斃るゝか然らざれば身體の衰弱を催ほして廢疾同様の有様に陥らざるを得ず世間或は辛苦經營、家に巨萬の富を積みながら身は早く死して自から快樂を享るの殘年を空ふし相續の子は年尙ほ幼にして遺産の維持法さへ覺束なきもの少なからず事業の計畫は利益を得て富を成し一身の快樂、子孫の幸福を謀るが爲めに外ならず自から身體を大切にして病、死の厄を免かれ生命を長ふしてこそ目的を達す可き次第なるに壯年有爲の人物にして智識もあり伎倆にも乏しからず然かも將來に大望を懷いて其望を達するの境遇に在りながら不養生の戒を犯して飲食などの爲めに身を害し自から危機を踏みつゝありとは返すゝも惜しむ所なり蓋し實際には其人々とても自から好んで爲すに非ず世間の流行に餘儀なくさるゝものにして今夜も又例の宴會かとて忌やゝながら出席して酒盃の盃洗に觸る音を聞ても早く既に嘔吐を催ほさんとする程にてありながら一盃々々覚えず泥醉して醒めては後悔し後悔しては又酔ひ殆んど惡因縁に繋がるゝの思を爲して最早や堪ふる能はずなどの愚痴談は毎度耳にする所なり自から知りつゝ改めずとは愚の至りにこそあれ世間の流行と云ふ其流行は畢竟銘々共の催ほしたるものにして互に相戒めて相謹しむときは即刻止むを得べし一身の健康は勿論、事の相談の爲めにも止むること利益なれば何とか別に集會の法を工風して宴會の沙汰は成る丈

け止めにす可し我輩は其人々の利益の爲めに餘所ながら忠告するものなり（明治二十九年八月十六日）

宴會の醜態

今之紳士紳商の流が集會用談と云へば必ず宴席に於てし宴會又宴會連日連夜酒に耽りて眠食の時を誤まるが如き不養生の最も甚だしきものなり若しも此儘止めざるときは健康を害して遂に身を亡ぼすに至る可し我輩の敢て忠告する所なれども不養生の談は別として其宴會に見るに忍びざるの醜態は藝妓をして席に侍せしむる一事なり近來の習慣として苟も紳士の會席とあれば必ず妓を呼ばざるはなし其妓を呼ぶは酒間に周旋せしめ又は絃歌を聞き舞踊を見て興を助くるが爲めならんれども本來藝妓なるものは其名の如く技藝を演じて客を娯ましむ可き筈のものなるに實際には半妓半娼の姿にして取りも直さず一種の賤業婦なり賤業の婦人を紳士の席に侍せしむるとは何事ぞや然かも其宴席の様子を聞くに酒酣に席亂るゝに至れば堂々たる紳士が賤業婦と坐を接して酒盃を取換はし言語を交ゆる其辭は醜猥矢張り彼の賤業婦を聘するのみならず家の妻女と相混じて客に接せしむるものさへありと云ふ驚き入たる次第なりと云ふ可し今之社會に於ては恰も普通の事として深く怪しまざることならんれども若しも外國人などが日本の藝妓とは半妓半娼のものにして實際は一種の賤業婦なりとの事實を知り扱日本紳士は公會の席上に其賤業婦を侍せしめて公然戯るゝのみならず時としては之を家庭の中に延き自家の妻女と共に客に應對せしめて平氣なりなど聞きたらば其驚きは如何なる可きや公然醜態を演じて恥ぢざるは總て是れ未開不文の陋習にして苟も文明紳士の體面として謹しむ

可き所なり抑も社會人事の面には自から表裡の別あり其兩面を透して玲瓏、玉の如くならしむるは今の人文の程度に於て到底望む可らず所謂文明社會とは其表面をます／＼明にして輝かしむると同時に其裡面をばます／＼暗くして暗黒中に没せしむるに過ぎざるのみ我輩は一種の潔癖家の如く人事の裡面にまで立入りて清淨無垢を期せんとするが如き不通の説を爲すものに非されば暗黒の裡面に於ける一身の私事は敢て問はざる所なれども其境界の私を社會の表面に演じて人間社會に齒す可らざる賤業者の輩を公然なる公席に侍せしめ公衆の前に戯るゝが如き醜態は苟も紳士の行として認むるを得ず斷然排撃する所なり左れば藝妓を呼んで席に侍せしむるが如き人々個々の私ならば兎も角も苟も公會の宴席に於ては之を謹しみ坐間を周旋し又は餘興を添ふるが如きは代ゆるに他の趣向を以てして以て文明紳士の品位を維持せんこと敢て希望に堪へざるなり（明治二十九年八月十八日）

集會と飲食

人間相集りて社會を成す上は相互の交際は勿論、商賣、實業學問等の爲めにも集會の必要は缺く可らず多人數の集會に時至りて飲食を催ほすは尋常の事にして怪しむに足らず集會の主人が時間を計りて豫め其物を用意するは一片の好意にして又招かれたる衆客も談未だ盡きざるに中坐す可きに非ざれば好意に應じて馳走に預ることなり飲食も斯る爲めの設ならんには主人も心を勞せず客も遠慮に及ばずして或は間接に交情を温むるの媒介たることなきに非ず集會に伴ふものとして別に差支なけれども今日の實際を見れば如何なる種類の集會にても集會即ち宴會にして盛宴を張り豪奢を競ふ其目的は會するが爲めに飲食するか飲食するが爲めに會するか始んど分別し難きが如し即ち人を招くに主

人の注意は第一に飲食の撰みにして是れにても面白からず夫れにても妙ならずとて頻りに心を苦しめて善盡し美盡し所謂山海の珍味を陳ねるも飲食の量には自から限りあるが故に是に於てか餘興など唱へて例の藝妓を呼んで席に侍せしむる其藝妓も坊中の尤物を抜いて撰拔の精に誇るが如き數十名の客を饗するに一夕幾百圓の散財は珍らしからず招く一方に於て既に然るときは招かれたる一方に於ては更に盛にして之に酬いざるを得ず飲食の競争風を成して人事の實際に時々會合の必要はあれども扱この馳走の一段となれば殆んど趣向に窮してます／＼宴會の體裁をして不潔ならしむる其趣は今の音信贈答にます／＼派手を競ふて例へば葬式の折の生花造化の如き單に一片哀悼の情を表す可き苦のものなるに次第に形を大にして恰も祭禮の山車を見るが如く弔ふが爲めか祝するが爲めか殆んど解す可らざると一般、本來の目的にはいよ／＼遠ざかりて全く飲食の爲めに會するものと見るも不可なきが如し其費用の如き一夕幾百圓など云ふも富豪大家の身に於ては物の數にも非ず豪奢贊澤は其人々の物數寄として傍より云々す可き限りに非ざれども單に飲食を以て人を會するは恰も口腹の慾を以て他を喜ばしむるものにして自から氣品の卑しきを示すのみからしむるに至る可し單に用談の爲めの集會ならば相會して時至れば自然に飲食を催ほし用終れば直に散す可し甚だ無造作にして却て其中に情味の濃なるを見る可しと雖も其用談は兎も角も豫め先づ馳走の趣向に注意して先夜の獻立餘興は云々なれば今度は如何にして然る可きや斯くては前に劣りはせずや斯くては人に笑はれはせずやなど只その獻立の一方にのみ心を寄するときは結局互に事の面倒を感じて三度の處は二度と爲り二度の處は一度となり遂には交際往来の疎闊を催ほすに至らざるを得ず人事繁多にして集會の必要も頻々なる目下の社會に堪へ難き次第なりと云ふ可し

本來の目的を尋ねて飲食の爲めに會するに非ず會するが爲めに飲食するものなりと自から悟りたらば用談の集會に飲食を主とするの趣向は斷じて謹しむ可き所なり（明治二十九年八月十九日）

集會の趣向

飲食を以て人を會するときは最初の中こそ面白半分に集まるもの多けれども度び重なれば次第に之を厭ふて次第に交際往來の疎闊を催はさざるを得ず飲食の外に會合の必要なければ夫れにて差支を見されども社會の人事は甚だ繁多にして商賣、工業、學問等の事に時々相會して互に意見を陳述し知識を交換するの必要は自から止む可らず實際に斯る必要ながら本來の目的に非ざる飲食の爲めに事を乙甲にして會合を厭ふの情を生ぜしむるが如き決して文明の交際法に非ず今の紳士たるものゝ自省す可き所なり或は其紳士の流が自家の物數寄の爲めに大に贅澤を逞ふして外觀を張らんとならば邸園車馬を美にするも可なり書畫骨董を弄ぶも可なり或は時としては非常の盛宴を張り大に客を會して豪奢を誇るも敢て妨なしと雖も日常の往來交際で飲食の物を以てして苟も集會とあれば其目的如何に拘はらず又時間の如きも頗著せず會すれば則ち飲食し飲食すれば則ち醉飽を極むるが如き時と場合とを辨へざるの舉動にして到底永續す可きことに非ず既に世間に於ても之を厭ふものこそ多き次第なれば是非とも其習慣を改めて往來交際を簡便にし容易に會し容易に談するの工風なかる可らず其方法は自から多々なれども紳士の社會に一のクラブを設けて集會の場所と爲すが如きも一法なる可し世間に何々俱樂部何々會など稱するものなきに非されども只その名を存するのみにして會員の人々が時々相會する其集會は矢張り例の料理屋などにして例の如く飲食會に終るもの多きが如し斯くて

は所謂クラブの效能もなきことなれば先づ場所を相して集會場を建築し一通りの遊戯品等を具へて閑暇の折に日を消すの便宜は勿論、集會の如き此場所に於てするときは時至りて會食することあるも其飲食は人を馳走するにも非ず又他の馳走に預るにも非ず銘々自から主人たるものにして別に心を勞するに及ばず交際集會の爲めには甚だ便利なる可し維持費の如きも各自に醵集して今日の飲食會一夕幾百圓を費す其費用を以てすれば容易に辨ず可し左ればクラブの建築の如きも自から一法として更に他の工風を求むれば西洋に行はるゝ集會の法は頗る簡便なるものあり彼の *A Home* とて隨時に接客の日を定めて來客に接し客も亦その日を待て訪問するの法は近來我上流社會にも往々似寄りの例あり是れは貴婦人の事にして來客も亦婦人に限ることなれども英國などの習慣を見るに男女に拘はらず自宅に客を會するに凡そ同様の趣向にて多人數の客を案内することあり即ち何日は何時より何時まで主人在宅との案内なれば其時間の中ならんには客の來訪隨意にして早く去るものもあれば晩く來るものもあり主人は坐に在れども特に馳走の案内に非されば客と客との對談も自由にして挨拶應答の窮屈なく殊に其來客は自から招きに預りたるものゝみにして何ら茶もあり酒もあり食物もあり恰も其家を會場として知己朋友互に會するの方便に供するが如く緩るゝ歎話して散するの常なり誠に簡便の趣向なりと云ふ可し今日の實際の如く適まゝ人を訪ぶも其人は極めて多忙にして家に在るこれも平生懇意の人々なれば其談話も自から濃ならざるを得ず固より斯る趣向の會なれば別に饗應の用意はなきも自か如き體裁にして懇談緩話の席に非ず斯くの如きは文明社會の事に非ざれば今の紳士の人々は銘々に心して其習慣を改むることに注意し集會の爲めにはクラブを設立し又自宅に客を會するには西洋に行はるゝ趣向に倣ふて交際往來の法

を便利ならしむること今之實際に肝要の處置なる可し（明治二十九年八月二十一日）

社會の交際

今之日本社會には殆んど交際と名づく可きものなし彼の紳士紳商の集會の如き多くは飲食を主として放歌亂舞の殺風景に終り全面の趣向甚だ高尚ならず酷評すれば暗夜の密會を白晝に行ふものにして紳士の體面に於て愧づ可きのみならず單に飲食以て人を會して互に馳走の趣向に心を苦しめ却て交際の調を卑くするが如き到底永續す可きに非ず而して是等の會を除けば公然の公會は甚だ稀れにして極々懇意の友人が親類附合ひに往來訪問するの外、苟も社會に地位を成したるもののが朝野の別なく又その職業の相違に拘はらず時々相見て懇談するの機會とはなく若しも知名の人が何かの用事にて互に訪問することもあれば忽ち世間の耳目を惹き之を怪しむものあるが如き窮屈不自由この上あら可らず例へば今之政客輩が某處に會合したりと云ひ又誰々が誰々を訪問したりなど云へば其用事の如何に拘はらず世間にては早く既に邪推して恰も穴隙を鑽て密會したるかのやうに認め明日の新聞紙上などには忽ち其事を記して隱約の間に疑を存するが如き畢竟社會に交際の道、開けずして其平生に往來訪問の事稀れるが爲めのみ政客本來隱君子に非す浮世の人事政事に心を寄せて世間の消息を知らんとするの念甚だ切なれば交際往來の必要を感すること無論なりと雖も如何せん今日の有様に於ては常に其方便なきが故に平生は極めて疎闊に過ぎながら萬、止むを得ざる場合に迫りて他を訪問することなり世間に怪しまるゝも決して偶然に非す如何にも堪へ難き次第ならずや社會の交際は單に飲食の友のみに非す政友もあり商友もあり學友もあり人々の地位職業は銘々に異なるも舊交を温むる爲めに又知識

を得るが爲めに隨時の會合は必要にして文明社會に交際集會の頻繁なる所以なるに然るに目下の如く甚だ窮屈にして殊に政客輩が其舊友に會したりとて忽ち世間の耳目を驚かすが如き有様にては社會は恰も箱詰室塞の姿にして人事の殺風景この上ある可らず畢竟今之世間に紳士の交際なるものは單に飲食の交にして然かも其體裁甚だ宜しからず高尚の士君子は之を厭ふて近づくを潔しとせず眞實交際と認む可きものなきが故に苟も上流政客輩の會合など云へば凡俗の耳目には甚だ新奇にして自から怪しむことなれども政客の會合にして怪しむ可くんば學者の集會も怪しむ可く商人の集會も怪しまざるを得ず不潔なる宴會の外に集會と名づく可きものなく之あるときは忽ち世間を驚かすと云ふ窮屈至極なり不愉快至極なり畢竟その本を尋ねれば文明紳士の平生に磊落活潑の氣象なく漫に互に猜疑するよりして遂に醸し成したる餘弊と云はざるを得ず左れば今日の要是官民朝野の區別に拘はらず交際往來を自由にするの道を開くに在り我輩の飽くまで催促する所なり（明治二十九年八月二十三日）

社會の交際における官尊民卑の陋習

日本の社會に交際の道開けずして世間知名の士人が日常の往來訪問さへ窮屈なるは既に述べたるが如し我輩の所見を以てすれば其道を開て官民朝野の別なく往來を自由ならしむるには先づ官尊民卑の陋習を破るに非ざれば不可なりと斷言するものなり其陋習は我輩が年來力を極めて排斥したる所にして近來政治上には少しく觀を改めて政府の小役人などが公然人民を輕蔑して奴隸視するの風は漸く收まりたるが如くなれども交際上には依然陋習の存在を認む可し所謂貴顯輩が久しく政府の地位に坐して席の暖なるに隨ひ漸く磊落書生の舊を忘れて雲上の虚榮に心を奪はれ次第次

第に爵位の高きを致して自から得意なるは小兒の戯として一笑に付す可しと雖も其爵位を世間に耀かして恰も雲上の光榮を下界に誇らんとするが如き既に戯の境を過ぎて自から身の程を知らざるものと云はざるを得ず今之官界の組織に於ては爵位の制も亦止むを得ざることならんれども是れは唯政府中に行はるゝ一種の規定にして自から其區域ある可き筈なるに曾て其邊の注意なく官界一部分の規定を濫用して廣く社會普通の交際上に及ぼさんとするとは何事ぞや例へば官邊には全く關係なき人間普通の集會私席に於ても例の政府人は其爵位の高きが爲めにて常に上流に位して一座を睥睨し苟も官界以外の人にして無位無爵とあれば必ず之を下席に就かしめ挨拶の仕振、言語の用法までも自ら別にするの風なり文明社會の醜體咄々怪事に非ずして何ぞや既に此程、府下の紳商輩が政府の當局者を其處に招て臺灣の話を聞きたる折、主客應答の辭を見るに一方にては諸公閣下、尊臨を辱うすなど丁寧至極あらん限りの尊稱尊敬を奉りて自から卑屈を愧ぢざる其一方にては諸君、推參致すなど頗る横風なる言語は當日賓主の別はありとするも斷じて對等の交際とは認む可らず或は今の商人輩の如きは從來の關係もあり又は商賣上の必要より他を招きたるものなれば自から忍びたことならんれども苟も高尚獨立の士人ならんには誰れか斯の如き傲慢の輩に接して恰も自から侮辱せらるゝを好む者あらんや唯將來を警めて之を避くるの法を工風す可きのみ即ち今の社會に交際の道を開けずして甚だ不自由なるは官尊民卑の陋習を存するが爲めにして我輩の夙に遺憾とする所なり左れば目下交際不自由の源は官尊民卑の陋習に在り其陋習を破るに非されば斷じて不可なりと雖も抑これを破りて道を開き官民相近づかしめんとする其端は双方いづれより始む可きやと云ふに例へば男尊女卑の風を改めんとするには男子たるものが先づ自から學動を諱しみ女子を敬して之に近づき其地位を高めしむこと必要なると一般にして先づ官よりすること相當の順序な

る可し今の官邊の輩が雲上爵位の空威張を止めにし尋常の交際には尋常の一個人として人に接するときは世間に於ても之を厭はずして之を迎へ社會の交際は圓滑に行るゝに至る可し我輩の敢て望む所なれども若しも其輩に空威張を止むるの勇氣なく飽くまで爵位を以て人に驕らんとするに於ては到底自由の交際は見る可らず斯くては社會の光景いつまでも妙ならざるのみか空威張の結果は微妙の邊に人の感情を傷けて一般の不平怨望を買ひ遂に意外の成行も計る可らず我輩は單に交際の一點のみならず其輩の私の爲めにも竊に掛念に堪へず早速悔悟の利益を勸告するものなり

(明治二十九年八月二十六日)

百年の長計を破るものは誰ぞ

今の社會の交際を妨ぐるものは官尊民卑の陋習より甚だしきはなし苟も其陋習の存する間は官民朝野の間に自から一線を劃して相互の交通を遮断し到底相近づくを得ざるのみか双方の距離次第に相隔りて恰も社交上に官界民界の二國を生じ其國人は互に感情を殊にし利害を殊にして互に相争ふの極にも至らば社會の交際は勿論、國家の組織上にも由々しき大事なる可し經世家の輕々に看過す可らざる所なり今之官民の關係を見るに所謂貴顯と稱する輩は恰も爵位の虚榮に醉ふて殆ど人事を辨ぜざるものと云ふも可なり其爵位も或は官界の組織に於ては自から必要の場合もあらんなれば其場合に限りて一種秩序の具に利用するは敢て差支なしと雖も社會の交際には漫に尊卑の區別を設けんとする其必要は何れに在るや人間社會は甚だ廣く學問宗教商賣實業等一切の組織を包羅して政府の如きも其包羅中の一組織に過ぎざれば既に社會の一人として人に接する場合には各種の人間は總て是れ平等一樣にして特に階級を別にするの必

百年の長計を破るものは誰ぞ

七八三

要はある可らず喻へば親戚朋友の關係にしても地位の相違、貧富の區別はあれども其交際には自から長老を推して地位貧富を問はざるに非ずや社會は親戚朋友の關係を廣くしたるものに外ならざるに單に官邊に住して爵位の高きものが常に上流の位を占めて一般の親戚朋友を輕蔑するとあれば交際の眞情は決して認むるを得ず事の明白なるものなり左れば今之貴顯の輩も官邊に於ては自から爵位の赫奕たるものあるも一般の社會に對しては其光を藏めて之を現はさず平等一樣に交はるの心得こそ肝要なるに然るに現に其輩の平生を見るに恰も虛名に醉ふて爛漫の態を呈し殊更に光明を輝かさんとするの痴情よりして例へば書狀名刺又は新聞紙の廣告など苟も姓名を記す場合には必ず爵位を肩書きにし單に自家の住處を知らしむるの方便に過ぎざる門札に至るまでも何位何爵など認めて乃公の御殿は此處と云はねばかりの威張方は驚入たる次第ならずや然のみならず其家居の有様を聞くに主人は殿様、妻君は奥方その子女は若様姫様など唱へさせて恰も舊時の大名を以て自から居り容易に人を近づかしめず否な近づかしめざるに非されども恰も僕婢の禮を執るに非ざれば尊嚴を犯さるゝものとして主人の顔色甚だ悦ばざるが如き有様なるが故に眞實の無腸男子か又は横著者にして何か自から爲めにせんとする者の外は先づ以て之に近づくことを爲さず同じ人間の交際に稱呼を侮辱せんとするに非ず單に虚榮の痴情を逞うして自から愉快を感するに過ぎざることならんれども一方の愉快は一方にして一般人と區別し他をして婢僕の地位に立たしめんとするは如何なる心得ぞや蓋し其輩の心事は強ひて他を侮辱せんとするに非ず單に虚榮の痴情を逞うして自から愉快を感するに過ぎざることならんれども一方の愉快は一方の不愉快にして其輩が愉快を感する其割合に一般の世人は不愉快を感じざるを得ず多數の不愉快を犠牲にして獨り自から樂む其愉快は果して永續す可きや否や甚だ掛念に堪へざる所なり或は區々たる爵位を得て大に満足し生涯の面目これに過ぎずとて驚喜音ならざる輩の如きは唯是れ奴隸根性の稍や進化したものにして一種の奴輩のみ強ち咎む可

(明治二十九年九月二日)

文明世界に國風の獨立を許さず

我輩が過般來屢々風紀の事を論じたるに付き或は餘り窮屈に過ぎて人事の實際に不通の説なりなど心竊に肯んぜざるものもあらんれども本論の趣意は正直一偏、事の表裡を通じて清淨無垢を期せんとするに非ず徳川家康公の教に男女間の事は總て大目に看過す可し但し士分は此限りに非ずとの言あり士分の行狀に重きを置きたるは自から目的の存することならんれども風紀の點より云へば男女の慾は天性に發して人力にて抑止す可きものに非ず徳川の勢を以てするも滿天下の男女を強制して風紀を守らしめんとするが如きは到底望なきことゝ斷念して單に士族の一類に依頼し其品行を標準として以て國風を維持するの考に出でたることならん況んや今の自由社會に品行論を唱へ天下無數の俗輩をして自から牽束せしめんとす到底行はれざるは智者を待たずして知る可きなり或は西洋の耶蘇國に於ては男女

の關係甚だ潔白にして人に語る可らざるものなし東洋野蠻國の企て及ばざる所なりとて頻りに彼の道德の高尚を説くものなきに非ざれども是れは單に彼の表面を見たる談にして裡面に立入りて其内幕を摘きたば言ふ可らざるの醜事甚だ多きこそ事實なれ我輩は殊更に其事實を計へて他の醜を明にするが如き敢て欲せざる所なれども富豪家の主人が死して遺産の分配に際し本妻の外に正當の夫人と認む可きものが數名一時に現はれたるが如き、賤業婦の腹に生れたる私生兒の父を尋ねれば儼然たる紳士紳商に多きが如き、敢て珍らしき沙汰に非ず若しも顯微鏡を以て彼の裡面の醜態を照し来て之を日本社會の事相に對映せしめたらば孰れが美にして孰れが醜なるや容易に判別す可らざるのみか實際に品位の高低を比較したらば寧ろ日本に高きの事實を確め得ることもあらんかなれども假りに一步を譲り其程度は双方同一なりしとして我輩が特に日本人に對して品行を云々するものは世界文明の大勢を標準として自から警しむるのみ若しも日本に充分の國力あらんには世界の大勢何ぞ憚かるに足らん磊落卒直は日本人固有の氣質なり内實に醜を悉にして表面に美を飾るは偽君子の事にして日本男子の恥づる所なり西洋には自から西洋の美醜あらん日本には自から日本の特色ありとて大手を振て世界の表面を闊歩するも差支なく通用することならん誠に愉快の次第なれども如何せん今の世界に日本人が獨り自から許さんとするも誰れ一人も感服するものはある可らず彼の露國の如きは歐洲中にも自から文明の發達を異にして其國風に一種特別のもの少なからず露人は自から之をスラボニツク、シヴキリゼーション（スラブ人種に固有なる文明の意味）と唱へて自から固有の風を存すれども世界文明の大勢に對しては其固有の風を押通すを得ず宫廷を始めとして其他の社會にも矢張り南方の文明を輸入して他に倣ふの必要あるに非ずや政治上には屈指の強大國として他に憚からるゝの露國に於てさへ尙ほ且つ然りとあれば今の文明の大勢に反する國風の

不徳と云はんより寧ろ無智なり

獨立は甚だ難きを知る可し左れば日本人の品行上の習慣は自から見て醜と爲さざるのみならず西洋國人の内幕にこそ寧ろ實際の醜事も多からんなれども其内幕の醜美は兎も角も文明の大勢に於て公に醜と認められたるものは取りも直さず世界の醜事にして表面には閉口せざるを得ず即ち我國にて本妻の外に妾を置くは古來の習慣に怪しまざる所なれども彼國人の眼より見れば恰も公然一夫多妻の實を行ふものにして驚かざるを得ず況して紳士の流が公會の席に藝妓と名くる一種の賣姪婦を聘するが如きは彼國の風習にて云へば社會の暗黒底に攘斥して苟めにも士人の口に上ぼす可らざる醜物を衆人稠坐の中に延て公に之を弄ぶものなり奇怪に非ずして何ぞや實際に是種の事實を存する以上は彼の國人等の見る所にて日本人は公然不徳を行ふの人種なりと認められて兎に角に辯解の辭はある可らず不徳云々尙ほ或は忍ぶ可しと雖も之が爲めに間接に日本の國光に影響する其不利は決して看過するを得ず我輩は今の人間社會に表裡を透して玲瓏玉の如き潔白を望むものに非ず只その裏面の醜を裏んで外に現はさず表面は飽くまでも清潔にして體裁を美にすること文明世界に處する日本人の心掛なりとして之を大切に思ふ者なり（明治二十九年十一月八日）

今の世界に處して他に交はるには一切萬事、文明の大勢に従はざるを得ず例へば我國にて從來慣用の暦を廢して大陽暦に改めたるは如何、又日曜日の休暇を採用したるは如何、陰暦にても陽暦にても時日の計算に差支はある可らず每一週間の安息日、我國人が遽に其必要を感じたるには非ざれども唯世界一般の例に倣ひたるのみ又洋服の流行の如きも其理由は甚だ解す可らず日本流の長袖は活潑敏捷の動作に不便なりと云はんか在來の股引法被を代用して差支を

不徳と云はんより寧ろ無智なり

見ず或は盲縞の打扮にて餘り見苦しき掛念もあらんには絹にて造るも可なり錦にて飾るも可なり自から工風はある可きに殊更に洋服に改めたる其理由は果して如何、更に大膽に見れば衣服の如き如何なる風にても頗著するに足らず浴衣どてらの儘にて人に接するは無論、或は裸體にて大道を横行して是れが日本風なりとて平氣に済まし込むも差支なき咎なれども目下の實際に衣服の沙汰は甚だ窮屈にして場合に由て夫れぐの定めを存し苟も其定めに違ふときは必ず非禮の譏を招き又人々の自身にも之を氣にするが如き決して便利の爲めとは認む可らざる其窮屈なる習慣を殊更に輸入したるは是れ又文明の大勢に餘儀なくされたるものに外ならず即ち今の世界に國風の獨立を許さざる明白の證據として見る可し左れば日本人が公然妾を蓄へ又公會の席に藝妓を聘するが如き敢て絕對の惡事を犯すものに非ず文明國にて極内々の祕密暗黒に付する其醜事は青天白日に斷行するものにして若しも冥府の法官が判決を下したらば寧ろ罪の輕きを見ることならん、質朴と云へば質朴、淡泊と云へば淡泊にして自から恕す可きが如しと雖も如何せん世界は文明と名くる大勢力の支配する所にして其大勢に於て醜と認むる所のものは飽くまでも醜事として擯斥せざるを得ず即ち蓄妾の風は彼の見る所にては取りも直さず多妻法に外ならず藝妓に戯るゝは買姪の醜行を犯すものにして日本人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして尙ほ忍ぶべきも爰に看過す可らざるは其影響として自から國光の明暗にも係はる可き誤解を免かれざるの一事なり例へば過般の戰爭に旅順虐殺の流説の如き又臺灣の土匪處分に付き良民を苦しめたりとの訛傳の如き人間の常情に訴へて人は一種の野蠻人なり道徳品行の思想なきものなりと一概に輕蔑さるゝ其輕蔑は濡衣を著せられたるものとして専

も案外に通用して事實と認められ大に迷惑することなきを期す可らず容易ならざる次第なりと云ふ可し故に人々その私行を美にするは一個の私の爲めに非ず即ち國光を明にするが爲めないと覺悟して大に警しめざる可らざる其用心の工風は世間無數の人をして悉く清淨潔白の君子と爲して社會の全面を玲瓏たらしめんと期するに非ず只表面に現はれて文明の眼に餘まる其醜點を勉めて裏み隠して肉眼の達する以外に遠ざけ顯微鏡を以て覗くに非されば發見する能はざる程に至らしむるに在るのみ即ち公然妾を蓄へて恰も犬猫同様、その數の多きを誇るが如き醜態は第一に廢止するは勿論、藝妓の如き公會の席に侍せしむるの風は一切止めにして若しも歌舞音曲を以て興を助くるの必要あらば藝妓に代ふるに其道の藝人を以てし又芳原などの遊廓も今日の如く公然門戸を張ることを禁じて自から青樓の設はなきに非ざれども何れの處に存在するか容易に分らざる程にする等、總て表面の醜を掩ふて祕密を保つこと肝要なり昔し徳川の時代にも墮胎は固より嚴禁なれども江戸市中に自から墮胎業を營む者ありながら事甚だ祕密にして何人に問ふも其存在を語るものなく一般の認めざる間に祕密の行はれたるは事實なりと云ふ今の社會の祕密も凡そ此邊の程度にして始めて體面の美を見るを得べきものなり我輩の論旨は以上の意味にして世人の了解に難からざる所なる可し若しも今日の社會に飽くまでも醜行を公にして國光の明暗を顧みざるものあらんには不徳と云はんよりは寧ろ無智と認めざるを得ず我輩は今世人が決して無智の人たらざるを確信して篤と相談に及ぶものなり（明治二十九年十一月十日）

宗教道德

移民と宗教

海外の移植を奨励するには第一に日本船を以て航海の便利を開くこと最も緊要なれども其事は姑く後に譲りて差當り人民が外に出で、海外萬里風塵隔絶の土地に移りながら恰も故郷に生活すると同様、銘々に業を勵みて自から安んぜしむるの工風は如何と云ふに内地の風俗習慣を其儘、外に移して人民をして海外に在るの感を催ほさしめざること肝要なり例へば家屋什器衣服飲食等都て舊來の趣を存し鍋釜膳椀味噌醤油の類も本國より持參するか又は移植地にて製造するの便利を得せしむるは勿論、第一に言語の如きは矢張り日本語にて一切の用を辨じ毫も差支なからしめざる可らず或は海外に行て學問を修め又は外國人に交らんとするには是非とも他國の語に通せざる可らずと雖も多數の人安居安心なりと聞けば傳へ又傳へて次第に内國より移住する其人民は見ず知らずの外國に行くに非ず恰も國內の轉居と同様の考にて行くことなるに言語に差支ありては如何に奮發するときは萬事差支なしと云ふは到る處に英人の居住すに挫けて遂に思ひ止まる者多かる可し世界の旅行に英語を解するときは萬事差支なしと云ふは到る處に英人の居住するもの多くして次第に其勢力を及ぼし他國人までも英語の必要を感じたるが爲めなり海外に勢力を占めんとするには移住の本國人は勿論、他國人と雖も我國語を使用するに至らしむること肝要なれば日本の移植地には必ず日本語を通じて

用せしむることとして移住民の便利を謀ると共に本國の勢力を其地に擴張す可きものなり又移住民の安心を維持するには本國固有の宗教を其地に移すこと大切なり外國の例を見るに未開の蠻地には宣教師を派出して蠻民を教化せしむるの常なり右は單に宗教上より化外の民を教化するの目的に外ならざる如くなれども其意味は自から深長なるを見る可し殊に自國の植民地の如きは最も宗教の事に注意して苟も人民の住する所には必ず教會寺院の設置を見ざるはなし人民の安心を維持し本國の觀念を失はずして永く其土地に安んぜしむるは宗教の力に依ること多ければなり例へば我徳川政府の初頃に何かの必要な爲めに泉州邊の漁民を江戸の佃島に移したことありしに埠の住吉大明神は漁民等の常に信仰する所なればとて其移住と同時に住吉を佃島に分祀して島の鎮守と爲し宗旨は西本願寺にして築地門跡の檀家と爲り歲時の祭禮供養等一切本地の習慣に隨て施行せしめ今日に至るまで島民の信仰舊に異らざるは東京人の善く知る所なり移植地に宗教の必要は事實に明白なる所なれば移住民が平生より尊信々仰したる神社佛閣を其地に分移して祭禮其他、一切本國同様に施行するは最も大切な事なる可し人民の安心を維持し新聞の地に常なる殺風景の人氣を緩和して效能の大なるは我輩の斷じて疑はざる所なり或は外國の例の如く今後人民を移植せしめんとする目的の地には先づ特に宗教家を派遣して教化に從事せしめ以て後日の便を謀るが如きも自から一法なれども是れは別問題として他日の機會に論することある可し（明治二十九年一月十七日）

神官無用ならず

世間或は今の神官の舉動を厭ひ時としては之を目して無用のものなりなど說を作す者なきに非ざれども畢竟その無

用視せらるゝは彼等が我國古來の習慣に反して葬式の事などに關して強ひて無益の勞を取らんとして却て人に嫌はるが爲めのみ苟も其本分を守りて世間の爲めを心掛るときは神官たるものは神に事ふるの外に爲す可き事、自から少なからず決して無用のものに非ざるなり抑も我國の宗教は百千年來の習慣、既に佛教と一定して復た動かす可らず國民一般の信仰は申す迄もなく帝室に於ても歴代の尊信甚だ淺からず御葬式の如き古來僧侶の手に委せらるゝの例にして例外の沙汰は絶無と云ふも可なり殊に彼の火葬の如き自から種々の物議あるにも拘はらず御歴代の中に其式を用ひられたるもの頗る多し佛教の人心に入る甚だ深きを見る可し左れば他事は兎も角も葬式の一儀に至りては僧侶に依頼して佛式に由ること百千年來の習慣にして何人も疑はざりしものが維新の革命に時の政府の當局者輩が一時の氣紛れより排佛の説を主張して一方に佛教を抑ゆると同時に一方には神道を鼓吹して本來の性質を云へば一心、神に事ふる傍に古代の歴史を研究して寧ろ一種の歴史家とも云ふ可き其神官を宗教家として取扱ひ神道を以て日本の國教たらしめんと試みたるこそ驚入たる次第なれ人爲の小細工は百千年の習慣を破る可らず國民一般の信仰心は今尙ほ舊に異ならずして佛教の尊嚴は自から依然たりと雖も此一事よりして從來は只神に事へたる神官が葬式の事に關係して神葬と稱する一種の式を生じ新奇を好む輕薄の輩などが物數寄に此式を用ふるが故に恰も不淨を嫌ふ神官の身として穢れたる僧侶の領分を犯すの姿を成して其間に混雜を引起すが如き珍事も實際に免かる可らず甚だ面白からざる次第なれば神官たるものも自から省みて斯る無益の舉動を止めてして葬式に關することなどは一切思ひ止まり自家の本分に相當して然かも國の爲めに益する事に力を致さんこと我輩の希望する所なり其本分に相當して國の爲めに益するとは如何なる事なりやと云ふに我日本は世界に比類稀れる國柄にして皇統の萬世一系は申す迄もなく古來海外に向て國力

を奮ひたることはあれども苟も外國より犯され外國に屈したることは只の一度も其例を知らず金匱無缺正に字義の如くにして他に誇るに足るのみか之を説てます／＼内の人心を鼓舞するに足る可きものなり然るに神官の一類は前に述べたる如く本來歴史家の性質を具へて斯る事實を講話するは最も適當にして最も得意とする所なれば神社の祭禮など多人數集會の席上にて歴史上の事實に據り神功皇后の三韓征伐を始めとして弘安の元寇事件、豊太閤の征韓談は勿論、殊に一昨年の日清戰爭の事實の如きは最も力を籠めて通俗に談じ一般に説聞かするの例と爲したらば國中の士氣を奮はしむるには非常の效能ある可し或は彼等をして斯る講話を爲さしむるときは徒に事を誇大にするの弊を免かる可らずとの掛念もあらんなれども英國などにて學校の教師が兒童に地理を教ふるに英の本土は一小嶋にして面白からざれば其面積を歐洲亞米利加の大陸と同様の大きさに畫いて示すの例あり小兒に對するには是れも自から一案なり神官の講話の如き恰も小兒に教ふると一般的ものなれば其誇大は小兒の戯と見做して差支なかる可きのみ而して更に我輩の所見を以てすれば其講話を助くるに一趣向ありと云ふ其趣向は何れの神社にも俗に繪馬と唱へて種々の繪を畫きたる額を掲ぐるときは講話の及ばざる所を助くるは勿論、或は參詣人聽聞人の中には戰争の實地を經たる歸休の兵士などもありて親しく其狀を説くこともあらんれば一層人心を感動せしむること疑ふ可らず今、日本全國にて佛寺の數は凡そ七萬餘なれども神社は甚だ多くして殆んど何十萬の數に達す可し此多數の社に悉く繪馬を掲ぐる其費用を如何す可きやと云ふに自から出處なきに非ざる可し例へば伊勢の神宮の如き其營造修繕は勿論、これに奉仕する神官無用ならず

職の給料の如き何れも國庫より支出して自から支ふるに一錢も要せざれども參拜人の賽錢又は神樂料など其收入は非常のものにして一日の額にても聞て驚く程なりと云ふ其他國中有名の神社にて收入の多きものも少なからざれば假りに斯る收入を以て繪馬を造るの費用に差向るも出處に差支はなかる可しと思へども實際に行はれるるの事情もあらんには僅々教十萬圓の金額、これを國庫より支出するは容易の事なり費用の一點は何れにしても差支なしとして斯くて全國の神社は官幣國幣は勿論、郷社村社に至るまでも悉く歴史畫の繪馬を掲げて其社に奉仕する神官は隨時、人を集め其事實を講話し一般に説聞すること、ならば國中の士氣を奮はしむるの效能は決して疑ふ可らず我輩は神官の輩が無益の勞を止めにして此工風に力を致さんことを敢て勸告するものなり（明治二十九年五月二十三日）

本願寺の授爵

今度の華族沙汰に兩本願寺の法主は伯爵と爲り門派の管長等も夫れぐに爵を受けられたり僧侶の身に俗爵位等の無用なるは我輩の曾て論じたる所にして其理由甚だ明白なり本願寺の如きは恰も生佛の身分にて徳川政府の時には只門跡と稱へて其待遇は凡そ宮方と振合を同ふし門跡自身も亦俗外に高尚して敢て他の下流に立たざりしは累代の法主が婚姻を結ぶに攝家宮方の家に限りしを見ても知る可し即ち世間の尊崇は其身に固有する生佛たり門跡たる光明を仰ぐものにして今更ら爵位などの必要なきのみか爵位の如きは寧ろ本來の本色を減するの俗累にこそあれ喻へば阿彌陀如來の本像は金箔に限るの例にして光明自から赫灼たれども或は金箔にては面白からずとて畫工に命じて色々に彩色を工風せしめ又は塗物師の手に掛けて蒔繪など施したらんには單に玩弄物と爲りて如來の難有味は全く消滅す可し門

跡に爵位の沙汰は如來の像に彩色蒔繪したるに異ならず自から金箔を剥で玩弄物の仲間入りとは驚いたる次第なりと云ふ可し或は爵位を肩書にするときは朝廷の席順などにも自から身分の重きを成す可しなど云はんかなれども座席の上下は單に宮中の定めにして生佛たる身分を輕重するに足らず之を云々するは俗界の情にして宗教家にあるまじきことなり若しも爵位を以て席を争はんとするときは公卿大名の舊華族の如き自から上席を占むるもの多きのみか或は近來書生より成上りたる新華族輩の下にも就かざるを得ず靈妙なる善知識の身を以て書生輩の下流に屈伏しながら却て自から得たりとは如何なる前生の宿縁にや自から自身の重きを忘れたる業晒しと云ふの外なし左れば本願寺の授爵は何れの點より見るも無益の沙汰にして甚だ感服せざる所なるに何故に斯る次第に至りしやと云ふに今之の政府の當局者は局量甚だ狭くして物を容るゝを得ず政治の實際には何の關係もなき爵位の制など發起して發起人先づ自から其者輩は局量甚だ狭くして物を容るゝを得ず廣く他に及ぼして他人を己れの下流に立たしめ恰も自分等の道樂に榮譽を占め獨り得々として世間に虚榮を耀かすは固より小兒の戯なれども是れは小兒相應の戯として姑く擱くも其小兒輩が一時の戯を自身一家の道樂に止むるを得ず廣く他に及ぼして他人を己れの下流に立たしめ恰も自分等の道樂に相伴せしめんとするは念の入りたる戯と云ふ可し物の色は青黃赤白黒おの／＼特色を呈して自から天然の美を成すことなり社會の人事も同様にして種々の異分子を集めて文明の觀を具ふるものなれば宗教學問商賣等は自から政治の外に獨立して妨なきのみか斯くてこそ各種の本色も自から現はれて社會の光彩を増す可き筈なるに然るに當局者の考は苟も異色異類の存在を許さず渺茫たる人間社會を料理するに恰も箱庭の工風を以てし小刀細工の寸法を以てして一事一物も自家の繩墨に外るゝものあれば之に關心すること甚だしく遂に彼の生佛に迄も爵位を授けて之を俗了したる次第なり其心の狹隘なる只驚く可きのみ然りと雖も又一方に於て本願寺は授爵の命に接し再三辭退の上、止むを得ず受

けたる次第にてもあるやと云ふに決して然らず法主は世襲の家に生れて次第に心身の薄弱を遺傳し真宗の眞は漸く趣を改めて行艸爛熳の筆法に化し去り肉食妻帶の教は漸く進化して風流磊落の佳境に入るのみか既に俗界に通達すれば俗榮に戀々するも亦自から其處にして或は門跡の家柄にてありながら交際社會に於て人に屈するは快からずとて自から煩惱も生じたることならん況んや以下の衆僧輩に於てをや所謂出俗の俗にして却て俗人を驚かす者こそ多けれ今にも無常の風に誘はれて焰魔の廳に至るとき俗間の俗物と法門の僧侶と罪業の輕重如何は容易に前言し難し其輕重は姑く擱き此僧侶にして他人の濟度するの德力ある可きや否や今分の處にて我輩は先づ以て之に依頼せざる覺悟なり其平生を見るに法衣翻々俗界に出没して周旋奔走頗る忙しく世間の如く出世間の如く稱名聲中何の思ふ所ありてか常に輕薄危險の人物に交り又は權門に媚を獻する等俗臭紛々唯言語道斷と云ふの外なし現に今回の事にも爵位の階級云々に付非常に運動してあらゆる手段を盡したりとは世間の風聞に傳ふる所なり左れば授爵の如き假令ひ當局者の發意とは云ひながら受けたる者も内に既に十分の情を催ほし寧ろ促したる程の勢にして願つたり叶つたりの始末なりと云ふ佛門不似合のことにして前に云ふ業陋しとは過言に非ざる可し俗僧輩の内幕は往々斯る有様にして今度の事も容易に行はれたるを見れば今後如何なる珍事の出来も圖る可らず眞宗の法運も最早や末路には非ずやと我輩は佛門の爲めに悲しみ又世教の爲めに惜しむ者なり（明治二十九年六月二十八日）

神社佛閣復活の時機

神社佛閣の維持保存に就ては我輩の論じたること自から幾回の多きに及びしやを知らず或は神道の如きは寧ろ歴史

の性質を帶びて直に宗教と目す可らずが如しと雖も數千百年來佛教と共に我國の人心を維持して其效著るしく社會に並び行はれて互に相戻らざりしものが王政維新勿々の際に一種の説を生じ佛教は外國傳來の外教なり日本の國體は固有の神道を以て維持せざる可らず云々とて遽に神官を重んじて僧侶の上に位せしめ古來の習慣に疑はざりし葬式の事までも其手に委ぬるの端を開きしより忽ち平地に波を起して互に衝突して互に傷つき其結果として由緒來歴ある神殿も蜘蛛の巣に鎖され壯嚴華麗を極めたる佛堂伽藍も風雨に朽つる等、外形の損害は尙ほ忍ぶ可しと雖も之が爲めに一般の信仰心を動かして方向に迷はしめたるは全く經世上の用心を缺きたるものと云ふ可し其心得違ひは今更ら致方なけれども人間の安心を維持するは居家處世の大本、即ち經世上の必要にして其維持法は千百年來の習慣に從て神佛の信仰を厚ふするが如き自から有力なる手段なる可し明白の道理なれども前記の如き次第にして殿堂伽藍の修復さへも意の如くならず恰も立腐れの姿にては凡俗の信仰も自から薄らぎて人心を繋ぐに足らず等閑に付す可きに非されば何とかして維持保存の法を立て其復活を謀るは經世の急務にして從來種々に苦心して其工風に勞したことなれども今や偶然にも時節到来して復活の好機會を得たりと云ふ其次第は一昨年來の戰爭に付き人心自から信仰の必要を感じて一般に神佛を仰ぐの心を生じたことなり凡そ信仰の心は既に人智を盡し人力を盡して尙ほ及ばざるを感するとき人間以上の力に依頼せんとする人心の弱點より來るものにして幸に志を達するときは之を天祐冥助と認めていよく信仰を強むるの常なり戰爭の如きは人間の智力のあらん限りを盡して尙ほ安心を得ず苟も敵に勝つの道とあれば如何なる方便をも厭はざるは人情の常にして自から人間以上の力に依頼するの心を生ぜざるを得ず左れば彼の戰争に死したるものは勿論生きて功名を成したるものも心は同じ清淨潔白にして一點の私情を交へず銘々自家の本分を盡したる

其上は只管天祐冥助を祈りしのみ或は假令ひ戰場に臨まさるも國の爲めに思ふの心は何人も異なることはある可らず斯くまでに心を勞したる其結果は意想外の大勝利にして只驚く可きのみなりと云ふ戦後の人心、一般に信仰を厚くして神佛の功德に一層の光を添ふるに至りしは當然の次第なりと云ふ可し聞く所に據れば昨年來各地方の神社佛閣には寄進の物なども多くして頗る豊なる色ありと云ふ或は此事態は近來田舎の好景氣より来るものなりと云はんかなれども地方の繁昌は單に今回のみならず從來とても自から其時節なきに非ざりしかども神社佛閣の事には曾て意を留むるものもなかりしに然るに今回に限りて特に人心の此點に傾きたるは畢竟戰爭の結果、一般の信仰心を新にしたる徵候に外ならずして苟も此機會を利用します／＼其信仰を導くときは今の神社佛閣を以前の有様に復活せしめて永久に維持すること決して難からず我輩の望を屬する所なり即ち神官僧侶の輩は大に奮發して寄進を勧めるなど自から種々紙上に記したる如く戰爭の繪馬を掲げなどして人心を鼓舞し又は熱心に說法し奔走して寄進を勧めるなど自から種々の方法あることならんれども第一に肝要なるは自から品行を修めて苟も失態を現はさるの一事なり今の神佛の振はざるは單に殿堂の敗頽に由て見る可きのみならず神官僧侶の品行も其殿堂の始末に等しく甚だ不行届にして醜聲外聞殆んど敗頽したるもの多きこそ重なる原因に外ならざれば苟も其心得を改むるに非ざれば人心の方向如何に拘らず永く信仰を維持することは到底難かる可し或は其道いよ／＼衰頽して回復の見込なきときは失望落膽の餘りに俗に云ふ焼けと爲りて自暴自棄、自から墮落するも致方なけれども前述の如く目下の有様は甚だ多望にして復活の機運到来疑ふ可きに非ざれば其輩も前途の望を樂みに辛抱して自から慎しむ可し此好機會に際して大に勉むるときは神社佛閣の復活決して難きに非ず我輩は經世の爲めに敢て其熱心奮發を勸告するものなり（明治二十九年七月五日）

雜 說

明治二十九年一月一日

日本の建國二千五百五十餘年、改曆の數、多しと雖も今年の如き目出度き新年はある可らず古來國運の隆盛を祝するに金匱無缺の語を用ふるの常なりしかども無缺とは單に既有的形を傷けず維持するまでのことをして消極の意味に外ならず如何にも小膽なる用語にてありながら自から之に満足して特に遺憾を訴ふる者もなかりしに今や無缺の字は實際に當てはまらずして今年の國運を祝するには金匱膨脹もしくは増大の語を以てせざる可らざるに至りしこそ愉快なる次第なれ神功皇后の三韓征伐は遼たり豊太閤の一舉とても果して如何の目的なりしや歴史の所記明に知る可らず兎に角に外國の土地を併せて日本の版圖を擴張するが如きは古來我國人の思ひ到らざる所なりしに一昨年の夏、風としたる行掛より清國と戰端を開き交戦凡そ一年間、海陸ともに大勝利を制して敵を屈伏せしめ戰勝の名譽を全ふして干戈を收めたる其結果は先人の曾て思ひ至らざりし版圖の擴張にして却て自から事の意外に驚くばかりなり而して其始末は悉皆昨年中に結了して恰も千門萬戸舊冬の舊塵と共に一點の微を残さず目出度く今年今日の春を迎ふることゝは爲りぬ吾々今代の日本國民は何等の幸福ぞ建國以來未曾有の愉快を懷いて建國以來未曾有の新年に逢ふ、例年なれば屠蘇一周家内の安全を祝するの常なれども今朝は先づ其前に萬歳を唱へて國運の隆盛を祝ふこと我輩の云ふまでもなく國民一般に同うする所なる可し金匱の膨脹增大誠に目出度き次第のみならず更に内を顧みれば戰勝の餘勢

として商賣企業の繁昌は兼て待ち設けたることながら實際の景氣は實に豫想外にして驚くに堪へたる所なり或は一方に此有様を見て一時の熱は酒に酔ひたると同様にして程なく醒めざるを得ず酒興の元氣に乗じて漫に趣るときは醒めての後の結果容易ならずとて頻りに警戒を加へて引留めんとするの説あり是れ亦決して無稽ならず目下の景氣果して酒精の力に依て一時の興奮を呈したるものならんには醉の醒むると同時に忽ち疲労を覺えて恐る可き反動ある可し酒興の上の付元氣は戒めざる可らずと雖も實際然らずして體力の健康を加へたるが爲めに運動の活潑を致したるものなれば其運動は健康の徵候として認む可きのみならずます／＼活潑なるに隨ひます／＼健康を増すのみにして毫も掛念はある可らず經濟家の所見に於ては此有様を如何に判断す可きや其判断は容易の談に非されども之を實際に微するに近年我生産力の發達は輸出入增加の數を見ても明なり民力發達して物の產出を増すときは自然の數として資本の膨脹を致し其膨脹は又隨て產出を促がし因と爲り果と爲りて次第にます／＼商賣企業の繁昌を見ざるを得ず往昔米國にて南北戦争の内亂の時、一時の急に應する爲め紙幣を濫發して一弗の通貨が二十四仙迄下落したことあり政府の當局者は種々に工風を運らし亂後第一著に租稅の增課を決行して紙幣を償却し盡さんとて非常の苦心も其策を得ず殆んど望洋の歎を爲したりしに何ぞ圖らん兵亂收ると共に國勢は意外の進歩にして人口は殖え生産力は増し國內の繁昌正しく新面目を開て當初濫發の紙幣は恰も實際の必要に應じたるの結果を呈し力を勞せずして自から平準の價に復したりと云ふ近來我國內に通貨の增加は何れの點より見るも疑ふ可らざる事實にして商賣企業繁昌の姿は之が爲めに誘はれたるものに外ならざれども其增加の度は恰も國力發達の實際に適應して眞實繁昌の氣運を呈したるものなるやも知る可らず果して然ならば目下の景氣は體力健康の爲めに活潑の運動を催ほしたる現象にして一時醉興の元氣に非ず真成に

横濱外人の奇話

國力發達の結果と認めて不可なきが如し但し實際の斷定は種々の事實を考へ詳細の研究を遂げたる上に非ざれば容易に言ふ可らず我輩の結論を敢てせざる所にして時に或は反対することもある可しと雖も然れども本日は古今に目出度き新年初日のことなれば兎に角に眞實發達の吉兆と認めて多言を止め滿社會の人々と共に商工業萬歳を唱へて繁昌多福を祝し詳論は姑く永陽の後に譲らんとするものなり（明治二十九年一月一日）

過日横濱の或る外人が催ほしたる集會の席上に於て一人の紳士が立て演説したる趣旨なりと云ふを聞くに日本は近來戰勝の勢に乘じて文明に誇ること甚だしと雖も吾々は之を承諾する能はずと云ふ次第は外ならず世界に向て日本國を代表する外交すらも一々、ト筮に頼るものにして恰も兒童が暗中に向て石を投するに異ならずたま／＼適中することありとするも誇るに足らざるのみか外皮文明にして内心未開なる本色を示めすものなればなりとて夫れより其紳士は右の談話の事實なることを證明せんが爲め其談話の出所が高嶋某の口より出でしこと、内閣總理大臣伊藤博文氏が日清の交渉に際して屢々高嶋某の易斷を待ちしこと等を述べて右の易論者が彼の紳士に與へたる算木を取り出して衆人の目前に並列し且つ本國に歸りて後は之を材料として日本文明の弱點を説明す可しとて喋々辯じたるよし右は私人の集會にして我輩の云々するを要せざるが如しと雖も本國に歸りて日本の外交すらも一に易断を待つものなりと吹聴す可しと云ふに至ては我輩の忍ぶ能はざる所なり思ふに伊藤氏は其政策に兎角の世評を免かれずと雖も日新の事態に通じたる者なれば國家興廢の機を易断に決せんとするが如き陋劣の事なきは我輩の固く信する所にして高嶋某が一場

の戯語を眞面目に受けて外交の相談を受けたりと信じ易断の效能を知らしめんが爲めに恰も廣告の種に使用したるものなる可し外國紳士の速斷甚だ笑ふ可しと雖も我輩は此事に鑑みて社會の上流に在る士君子が其言行を謹しまんことを勧告するものなり聞く所に據れば東京市中には尙ほ無數の賣卜者ありて豊に業を營むもの少なからざる中にも一二三の者に至つては門前來客を絶たず其依頼せらるゝト筮の件は必ずしも紛失物、嫁入婿取の日取に止らず一身の進退、商賣の取引等に關して相談を受け傲然一代の師を以て自から任するものありと云ふ如何にも可笑しさに過ぎて笑ふことも出來ざる次第と云ふ可し抑も人間の宇宙間に在るや空間に限られ時間に限られ原因結果の法に限られ發達力に制せられ殺滅力に制せられ求心力に引かれ遠心力に迫はれ有形無形、萬有、人類を通じて一として一定の勢力、一定の理法に由らざるはなし人間の運命なるものは此勢力理法の一消一長に由りて作らるるものにして恰も沙石が波濤に由りて形を變するが如し若し其大體に就て語らんとせば何人も能く運命をトす可し其局部細目に就ては神も佛も前言すること能はず既に理法と勢力を生じて其消長集散を自由ならしめたる以上は到底これを知るに由なきが故なり渺たる人間の智識能力を以て神も佛も知る能はざる所を知らんと欲するのみならず傲然これを知れりとして人に語らんとするに至ては其虚誕迷妄これを評して一種の偏狂（モノマニヤ）と云ふも可なり唯憐む可しと雖も更に眼を轉じて開闢以來今日の所謂文明なるものを見れば正に是れ盲者千人の社會にして滔々たる俗界の虛妄これを如何ともす可らず例へば文明の中心を以て自から誇る西洋諸國に於ても流行の Homeopathy の治療法に身を托する者比々皆是れなり一方には醫學日新の最中他の方には加持祈禱同様の事に惑溺する者多し文明の理想は恰も雜草繁茂の間に牡丹の花を點するが如しと雖も牡丹は則ち牡丹にして雜草の惡醜以て花の美麗を抹殺するに足らず彼の横濱の演説者は日本に

居り惡草の路に迷ふて花を觀ることを忘れたる者ならん斯る淺薄なる根據を以て事物の得失を評せんとなれば何ぞ必ずしも日本國に限らんや演説者の本國に於て却て好材料に乏しからざる可し（明治二十九年四月十九日）

發行所

東京市神田區
一ツ橋通町三番地

岩波書店

九段落(33)
電話
番号
口座
東京二九七〇八八
二番番番六小一一八八
四部〇八八
二重〇番番番

有所權版

昭和八年十二月二十五日印 刷

昭和八年十二月三十日第一刷發行

續福澤全集第四卷

(大森製本)

編 著 慶應義塾

發 行 者 岩 波 茂

印 刷 者 島連太郎

東京市神田區美代町二丁目二番地

刷印舍秀三

75

40

終

